

リポートニュース

平成19年10月号 No. 65

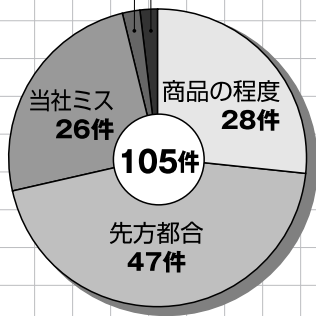
10月は自動車リサイクル推進月間。『自動車リサイクルを推進して
おりま〜す。ご協力をお願いしま〜す。』

チラシ配りは昨年に続き2回目。東京の新橋駅周辺3カ所で今年も行
われました。

経済産業省自動車課の省員の方々も応援に駆けつけていただき、一
時間たらずで1000枚のチラシを完配しました。

前月のクレーム 集計報告

運送会社ミス 2件 その他 2件



●自社主力商品別クレーム (輸出販売はノークレームのため対象外です。)

商品別クレーム	件数	クレーム率	内 訳
バンパー	3件	3/1086 0.28%	フェンダーと隙間が合わない、歪みあり合わせたらサフェ割れた、テールとの境目、取付切れそう 各1件
フード	3件	3/354 0.85%	歪みあり、程度が悪い、手間がかかる 各1件
フェンダー	6件	6/873 0.69%	程度が悪い、隙間が合わない 各2件 手間がかかる、へこみによる取付穴の位置ズレ 各1件
ライト類	16件	16/1578 1.01%	水濡れ 4件 光軸不具合、取付以外の欠け、破損して届いた 各2件 取付の欠け、異音がある、取付の角度違い、備多い、ハイロービーム切替不良、補修部見た目が悪い 各1件
トランク・ドア	0件	0/85 0%	0
計	28件	28/3,976 0.7%	

(自社のクレーム発生率0.75%以内を目指しています。)

※ 確かな部品をお届けするためには、車検証情報と現車の特別仕様情報が必要です。

自動車リサイクル部品の活用によるCO₂の削減効果

リユース部品の活用による環境負荷削減効果を LCA (Life Cycle Assessment) の考え方に基づき、定量化して「新品部品」と「リユース部品」の環境負荷の差を CO₂削減効果に換算したものです。

- 5月 CO₂削減数値 10.303トン
- 6月 CO₂削減数値 10.999トン
- 7月 CO₂削減数値 12.352トン

早稲田大学環境総合研究センター

JAPRA システムと NGP システムを通じて
販売されたリサイクル部品点数から算出

自動車リサイクル推進『チラシ』配布致します。

経済産業省・環境省がエンドユーザー向けに作製した自動車リサイクル推進チラシが若干残っております。ユーザー向けの情報として受付けカウンターに置かれるのに最適かと思ます。
ご希望の方はフロントにお話してください。



ブログ紹介「新聞記事」

四国の香川県・三豊市にある三豊島坂インターチェンジに隣接する土地に自動車オークション会場が 2009 年の春から営業予定と地方紙に発表された。進出するのは、中古車オークションの大手「トヨタユーゼック」である。資本金 68 億 3 千万、業界 3 位で現在全国 9カ所で会場を運営している。このニュースの注目すべき点は、トヨタユーゼックはトヨタ自動車が全額出資している会社であることにある。

リサイクル法施行後、下取り車・使用済み車・全損車両などの「タマ」の流れは、従来の廃車流通に加え、オークション流通という新たな流れを生んだ。

新車購入時、ディーラーに持ち込まれる下取り車両は、オークション流通の方へ流れるのが一般的な傾向になっている。自動車メーカーが生産から解体までイニシアチブをとる構図が次第に出来上がってきているのである。

これらの流れに対抗して、従来の廃車流通を支える解体業界は、直接ユーザーから使用済み車両を引き取る手法を懸命に模索している。「くるマック」「廃車復活戦」「廃車ドット COM」などのネットワークが既に立上がっている。

使用済み車両の争奪戦は次第にヒートアップしており、従来の解体事業者が生き残るためのハードルは、年々高くなっている様に思える。